



^ 13  
3961  
14





明へは  
14

城 隍 水 滸 傳 策 五 編 上 卷

紛紛悖逆羨久間。一旦雲開復見天。草木百年新雨露。車書萬里舊江山。尋常巷陌陳羅綺。幾處樓臺奏管絃。人樂太平無事日。鶯花無限日高眠。  
文政戊子春錄并刊行  
曲亭馬琴著  
書肆仙鶴堂梓  
歌川國安畫

壹

著述の勞へ看官の心を辟言田翁苦辛の粒米饑とて雛狗の五五へ  
投ぐ者ざるが如し。嗚呼書作のこころもあはるいのかの名人才子も漫る  
摸擬まるもの皆等類の免るべし。胎換骨の一段造化の巧も欺く接  
木の花は異なる。彼桃の櫻を用せ。檀の丹楓を流さま。看官の臺を  
忘れるもの。さうぞとて樹も亦己が根本の他木を知らず。あはれ花を  
補。これを奪胎換骨の妙巧といふるべし。傾城水滸の二書も亦この  
一段接木を以て。羅氏の水滸を其基として作者の趣向を接合。鬼園冊  
子の小盆を裁く。書齋の室を養食ひ立る。是を五編の花の鬼縁日と  
司。何処の融る。包ま。育。評判をとら。啼。東。久。作。者。馬。琴。監。本  
今。茲。で。三。十。八。年。休。ま。で。續。く。筆。眞。加。商。賣。眞。利。の。耳。ふ。く。溢。る  
文政十戊子春正月吉日新版

曲亭馬琴撰





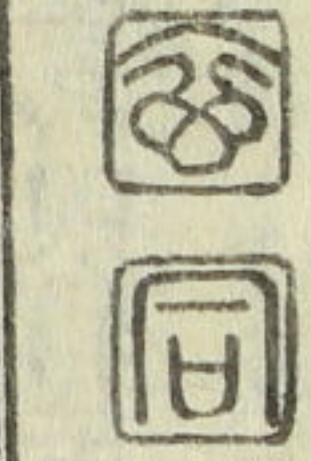
女行者竹世

虎と兄く



十市の鐵門

あつちのほ  
たのほのほ



後家持 西門屋阿答

雨雲乃あさる

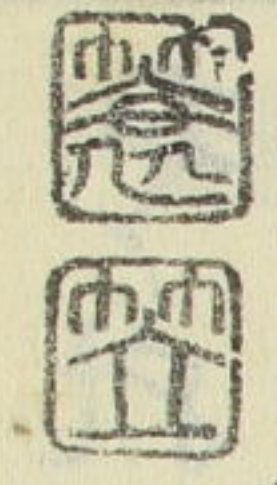
のら月も  
あつちのほのほ

餅師  
一寸星代

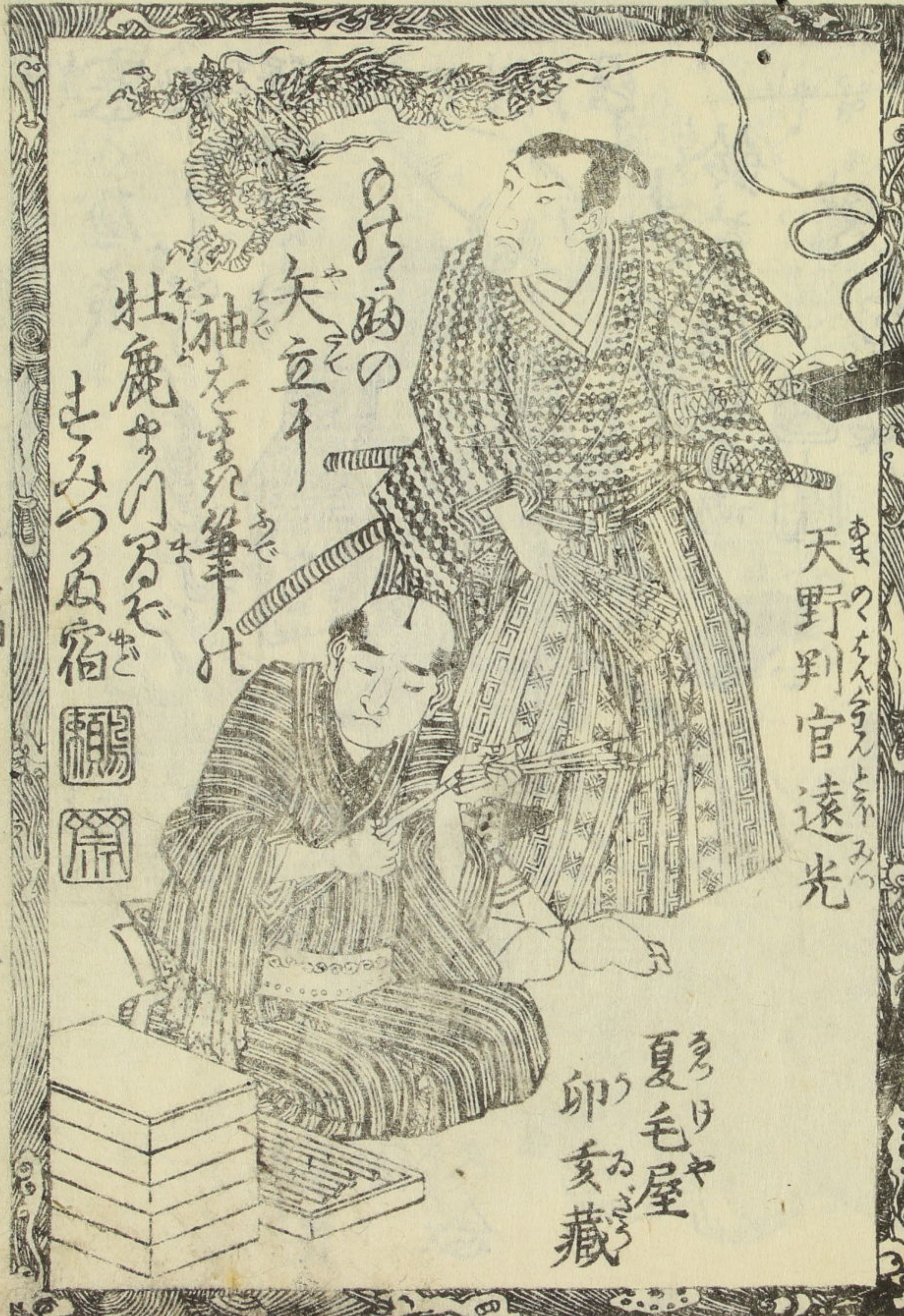
とんちん



関防人  
金運助







のれもの  
 矢立平  
 袖をきり筆に  
 牡鹿やのるを  
 まみつる宿

天野判官遠光

夏毛屋  
 卯亥藏

関  
 関

ナハ...



世に  
 極の  
 風流客の  
 金持

煎茶店  
 阿温

水菓子  
 商人  
 野三

関  
 関

ナハ...





大葉子母  
子



寒くぬき  
耳やうし乃  
裾野ゆも  
誰が解  
解

鈴菜摘む  
つ

因  
因

舞扇  
園喜代

僧茶毘  
念

只ささの傳五郎









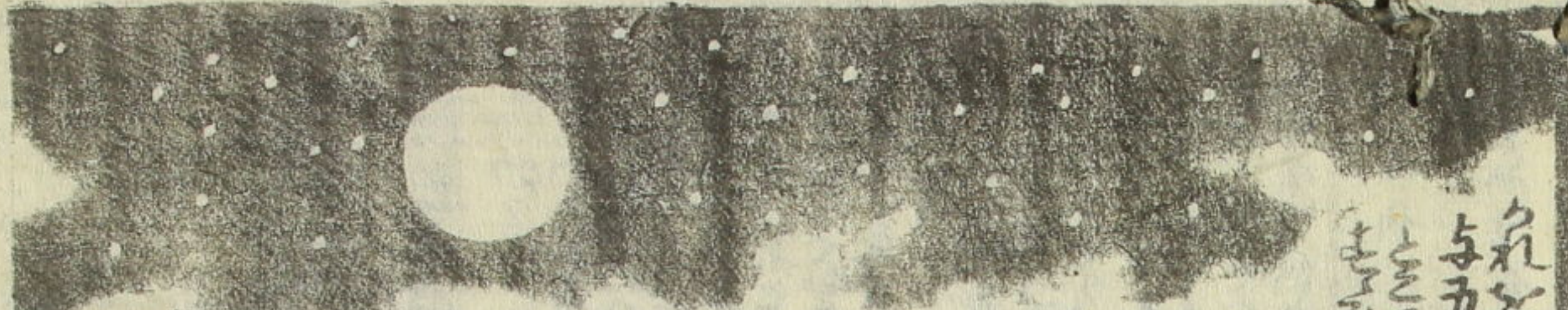












これぞとては... 五平とては...  
とては... 五平とては...  
とては... 五平とては...



下とては... 五平とては...  
とては... 五平とては...  
とては... 五平とては...

たか... 五平...

く... 五平とては...  
とては... 五平とては...  
とては... 五平とては...



とては... 五平とては...  
とては... 五平とては...  
とては... 五平とては...

たか... 五平...







三百もの今更のり...  
この世の浮世草子...  
江戸の浮世草子...  
江戸の浮世草子...

江戸の浮世草子...  
江戸の浮世草子...  
江戸の浮世草子...  
江戸の浮世草子...



江戸の浮世草子...  
江戸の浮世草子...  
江戸の浮世草子...  
江戸の浮世草子...



